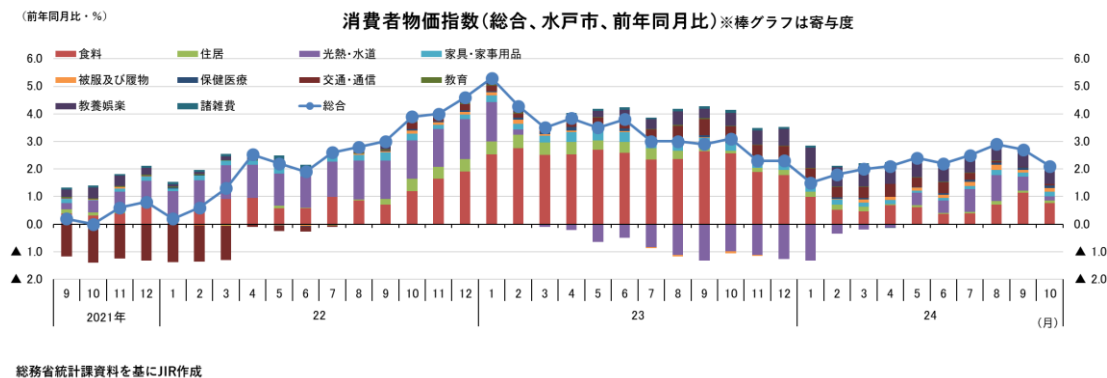


県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している

<今月のポイント>

- 県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している。
- 総合判断及び各項目の判断は据え置き。生産は、生産指数の推移や企業ヒアリングを踏まえると全体として「弱含み」の状況。個人消費は、消費マインドになお弱さがみられる中、供給側の販売動向等からは総じてみれば底堅く推移していることから「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している」との判断を据え置き。
- 24年以降の消費者物価指数（総合・水戸市、前年同月比）の推移をみると、前年の燃料価格下落の影響が剥落するとともに、食料や娯楽・教養サービスなど様々な部門で価格転嫁が進んでいることを背景に、緩やかな上昇傾向が続いている。
- 先行きは物価高や株価が企業や家計にもたらす影響、為替動向、海外経済の行方、米トランプ次期政権の関税政策及び日本政府の経済政策の行方、国内金利上昇など金融環境の変化を注視する必要がある。



<基調判断・天気図>

	基調判断				
	前月からの 変化	2024年11月調査	9月調査	10月調査	11月調査
総合判断	➡	一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している			
生産活動	➡	弱含んでいる			
設備投資	➡	持ち直している			
住宅投資	➡	弱含みにある			
公共投資	➡	持ち直している			
個人消費	➡	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している			
雇用情勢	➡	持ち直している - 労働需給は引き続きタイトな状況			

◆基調判断に添えた矢印は方向感を、天気図は水準を示します

生産は弱含んでいる

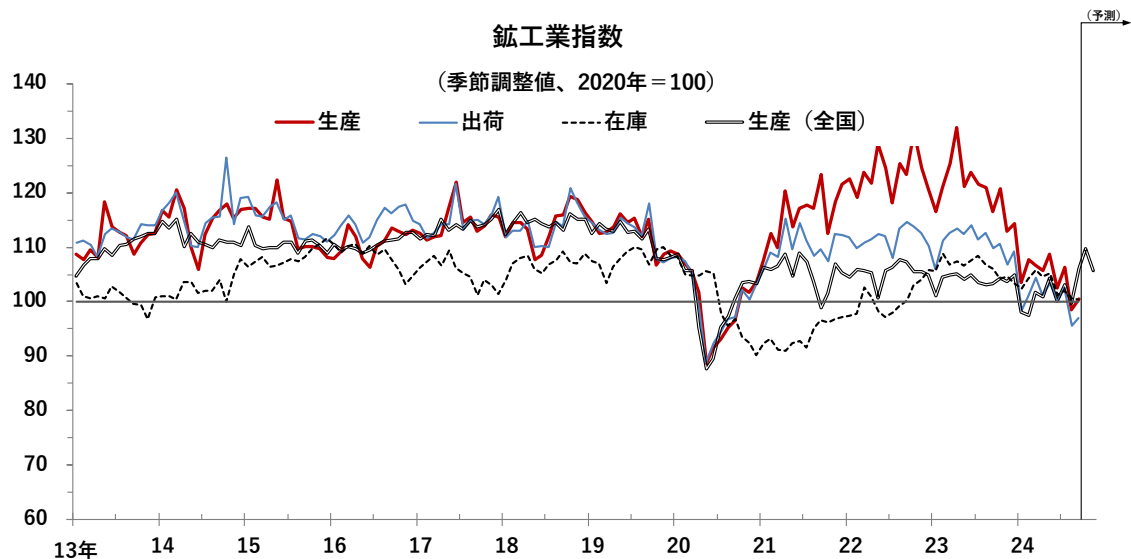
9月の鉱工業生産指数（2020年＝100、季節調整値^{※1}）は100.4、前月比2.0％増と、2か月振りに上昇した（7-9月期は、前年同期比3.7％減）。業種別の内訳について寄与度順にみると、輸送機械（同16.0％増）、プラスチック製品（同13.2％増）、化学（同2.9％増）、電子部品・デバイス（同11.2％増）等が上昇し、汎用・業務用機械（同6.2％減）、非鉄金属（同8.3％減）、鉄鋼（同9.2％減）等が低下した。

当社の企業調査では、7-9月期の製造業の生産判断DI^{※2}は▲24.8％、前期（4-6月期▲22.4％）比2.4pt減と小幅ながら悪化した。企業ヒアリングでは、最近の生産・受注に関して、「半導体関連部門については、取引先に輸出先が多いため円安の恩恵を受けている」（化学）、「本年度上半期（の生産・受注）は前年度比横ばいで推移」（産業用ガス製造）との声が聞かれた一方、「最近3か月の受注（見通し）はやや不調。背景として、一部自動車メーカーの工場停止の影響の残存に加え、海外市場における自動車販売の需要低迷が考えられる」（輸送機械）といった声も聞かれた。

このところの生産は、生産指数等などの推移や企業ヒアリングを踏まえると、全体として弱含みの状況にあるとみられ、基調判断は「弱含んでいる」との判断を据え置いた。先行きについて企業調査をみると、10-12月期の生産判断DIは▲17.4％、7-9月期比7.4pt増と上昇する見通し。もっとも、海外経済減速や人件費上昇等に伴うコスト高の影響に加え、米トランプ次期政権下で関税が引き上げられた場合の下押し圧力についても注意が必要とみられる。

外需に関係する貿易面についてみると、9月の茨城県内税関3支署の輸出額は2,202億円、前年同月比2.6％減と2か月連続で前年水準を下回った。鹿島は鉄鋼（同12.5％増）が増加したものの、有機化合物（基礎化学品）（同15.6％減）の減少などにより同14.8％減、日立（日立港・常陸那珂港）は主力の建設用・鉱山用機械（同79.5％減）が減少したものの、自動車（同18.2％増）の増加により同0.9％増であった。

※1：原数値から季節的要因を調整した数値 ※2：前年比で生産の「増加」と「減少」との回答割合の差



出所：経済産業省 ＊月次ベース、全国の24年10、11月の生産指数は製造工業生産予測指数をもとに算出

設備投資は持ち直している、住宅投資は弱含み、公共投資は持ち直している

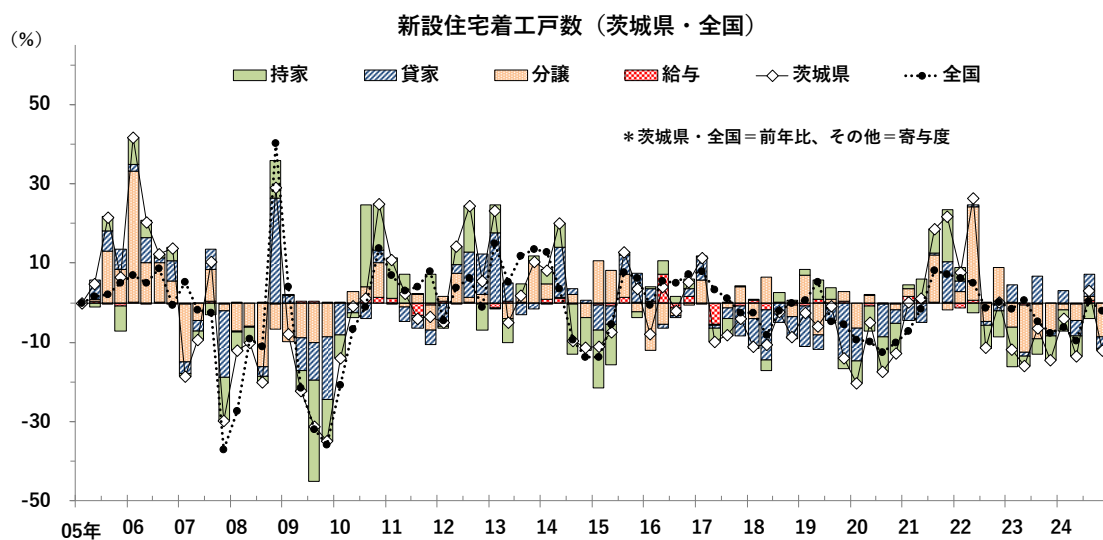
9月の建築物着工床面積（民間非居住用）は、主に工場や倉庫の減少により64千㎡、前年同月比21.4%減と4か月連続で前年水準を下回った。

一方、日銀短観（茨城県、9月）によると、県内企業の24年度の設備投資額※は、全産業ベースで同44.4%増の見通し（うち製造業が同51.0%増・非製造業が同30.5%増）。水戸財務事務所の「法人企業景気予測調査（7-9月期調査、茨城県）」によると、県内企業の24年度の設備投資額※は、全規模・全産業ベースで、前年度比36.7%増の見込み（うち製造業が同48.6%増・非製造業が同20.1%増）。また、当社の企業調査（9月）では、24年4-9月期の設備投資実施企業割合（件数ベース）は全産業で57.3%、当初計画比2.1pt増と概ね横ばいであった（うち製造業：56.4%、非製造業58.1%）。当社や日銀などの調査結果を踏まえると、企業の投資意欲には底堅さがみられることから「持ち直している」との判断を据え置いた。

9月の新設住宅着工戸数は1,200戸、前年同月比25.7%減と5か月連続で前年水準を下回った。内訳をみると、持家は629戸、同11.0%減と2か月振りに減少、貸家は397戸、同32.7%減と2か月連続で減少、分譲住宅は173戸（うち分譲マンション0戸）、同43.3%減と4か月連続で減少した。住宅投資は、主力の持家をはじめとして着工戸数の低迷が続いていることや、建物価格上昇が続くことで住宅購入マインドも弱いとみられることなどから「弱含みにある」との判断を据え置いた。

10月の公共工事請負金額は399億54百万円、前年同月比47.7%増と2か月振りに前年水準を上回った。内訳をみると、国、独立行政法人等、県、市町村のいずれも増加した。公共投資は24年度累計（4～10月）でも前年同期比14.3%増と堅調に推移していることを踏まえ、「持ち直している」との判断を据え置いた。

※ともにソフトウェアを含む（除く土地投資額）



個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している

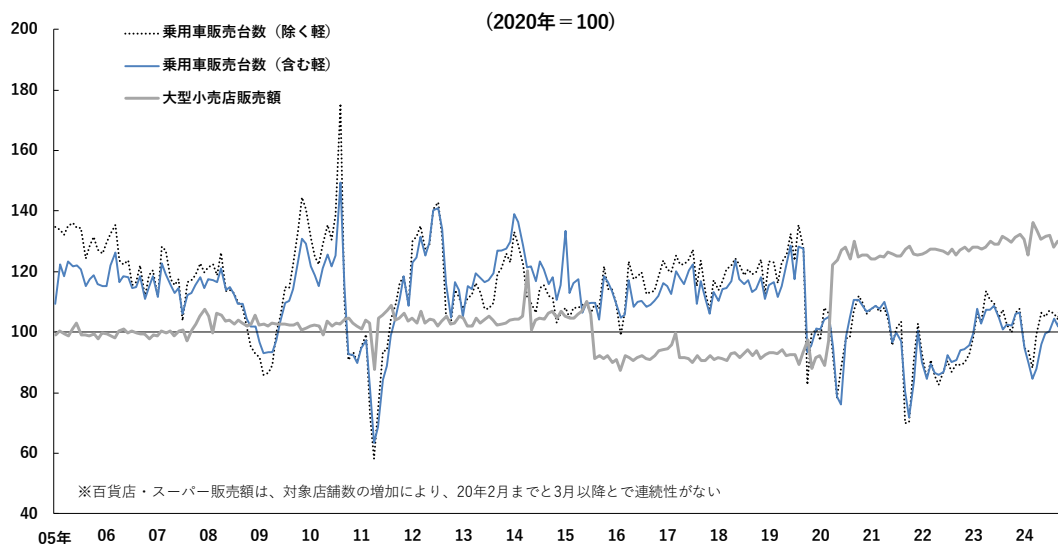
10月の乗用車販売台数（乗用車新規登録台数＋軽乗用販売台数）は9,291台、前年同月比7.2％増と、3か月振りに前年水準を上回った。内訳は普通乗用車が同20.0％増、小型乗用車が同18.4％増、軽乗用車が同14.8％減であった。軽乗用車の回復の遅れについて、ある自動車販売店からは「前年同期に人気車種のモデルチェンジがあったため、その反動が出ている」との声も聞かれた。

9月の百貨店・スーパー販売額は、全店ベースで前年同月比2.6％増、既存店ベースは同1.4％増と、ともに2か月連続で前年水準を上回った。専門量販店販売額は、家電量販店が同15.0％増と10か月連続で、ホームセンターは同3.9％増と2か月連続で前年水準を上回った。ドラッグストアは1.0％増と41か月連続で、コンビニエンスストアも同0.4％増と5か月連続で前年水準を上回った。

9月の家計消費支出（2人以上の勤労者世帯・水戸市）は、食料や教養娯楽が増加したものの、自動車等購入費の減少などにより前年同月比3.6％減と2か月振りに前年水準を下回った。消費マインドに関して「茨城県景気ウォッチャー調査」（9月調査分）をみると、家計動向関連DI(現状判断)は44.5、前回調査（6月）より2.5pt低下し、2四半期連続で目安となる50を下回った。一方、企業ヒアリング（11月）では、「秋口に入り、TVCMの効果などもあり、既存店舗の会員数が伸びている」（フィットネスクラブ）、「婦人服について、庶民的な低価格商品が苦戦しているものの、高額品はそれなりに売れている」（ショッピングセンター）といった声が聞かれた。

このように、個人消費は、消費マインドになお弱さがみられる中、供給側の販売動向などからは総じてみれば底堅く推移していることから「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している」との判断を据え置いた。先行きは実質所得の改善や消費マインドの行方について引き続き注視する必要がある。

乗用車販売台数、百貨店・スーパー販売額



出所：茨城県自動車販売店協会、経済産業省 * X-13-ARIMAによる季節調整値、月次ベース

雇用情勢は持ち直している―労働需給は引き続きタイトな状況

9月の雇用関連指標（ハローワークの求人対象）は、有効求人倍率（季節調整値）が1.34倍、0.03pt増と3か月振りに上昇した。新規求人倍率は2.14倍、前月比0.03pt減と4か月振りに低下した。就業地ベースでの有効求人倍率は1.54倍であった。

新規求人数は16,429人、前年同月比4.6%減と5か月連続で前年水準を下回った。新規求職者数は7,658人、同1.7%減と2か月連続で前年水準を下回った。新規求人数（パートを除く）の内訳を産業別にみると、医療・福祉（同12.1%増）、運輸業・郵便業（同6.6%増）が増加した一方、宿泊業・飲食サービス業（同58.4%減）、建設業（同12.0%減）製造業（同12.9%減、21か月連続の減少）などが減少した。

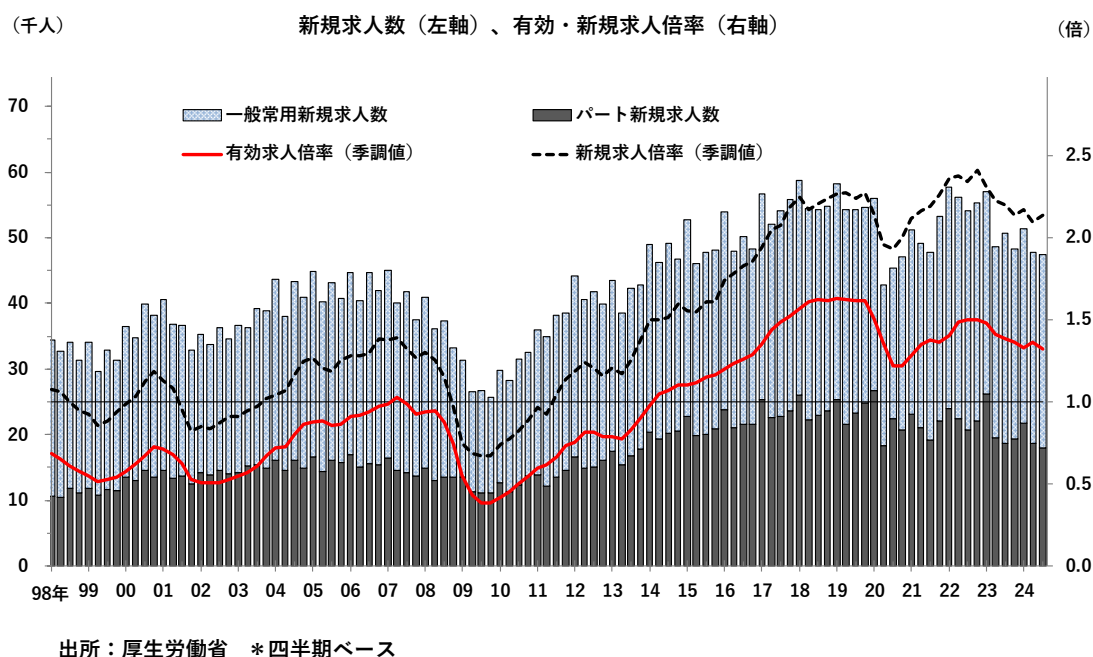
一方、県内の広告求人件数が足もとでは前年水準を上回っているなど、民間職業紹介における県内の求人動向は総じてみれば持ち直している。

失業者を示す雇用保険受給者数は8,983人、前年同月比1.5%増と2か月振りに前年水準を上回った。一方、事業主都合離職者数は、同34.3%減と2か月連続で前年水準を下回った。

このように、雇用情勢は、ハローワーク経由の有効求人倍率が単月ながら改善したことや、民間職業紹介の状況を踏まえ、労働者側から見て「持ち直している」との判断を据え置いた。

なお、茨城労働局によると、25年3月の新規高等学校卒業予定者の就職内定率は、9月末現在で65.3%と、前年同月末（65.9%）を0.6pt下回ったものの、選考開始初月としては例年に比べ高い水準でのスタートとなった。同求人倍率は2.94倍となっており、中小企業における高卒採用の確保は引き続き厳しい状況が続いているとみられる。

※1：「過剰」－「不足」 ※2：「不足気味」－「過剰気味」



茨城県経済動向 基調判断の推移

[illegible]

各指標の動向判断の推移

		生産	住宅	設備投資
2023	10	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	11	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	12	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
2024	1	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	2	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	3	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	4	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	5	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	6	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	7	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	8	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	9	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	10	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	11	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している

		公共投資	個人消費	雇用
2023	10	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きが弱まっている
	11	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きが弱まっている
	12	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きが弱まっている
2024	1	持ち直しの動きに足踏みがみられる	緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	2	持ち直しの動きに足踏みがみられる	緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	3	持ち直しの動きに足踏みがみられる	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	4	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	5	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	6	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しが見られる
	7	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しが見られる
	8	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しが見られる - 労働需給は引き続きタイトな状況
	9	持ち直している	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しが見られる - 労働需給は引き続きタイトな状況
	10	持ち直している	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直している - 労働需給は引き続きタイトな状況
	11	持ち直している	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直している - 労働需給は引き続きタイトな状況

「茨城県経済動向」は旧常陽地域研究センター（常陽アーク）が
1969 年より継続してまいりました月例調査を、
2019 年 4 月以降、常陽産業研究所が継承・実施しているものです

表紙の通番は常陽アーク時の通番を引き継いでおります

常陽産業研究所

地域研究センター

- ・本資料は、当社が独自に集計・入手しているデータを除き、2024年11月22日現在で公に利用可能な統計指標に基づき作成されています。
- ・公開されている統計指標は、過去に遡及して改訂されることがあります。
- ・統計指標を利用する際は、常に最新の公表資料を参照する必要があります。
- ・本資料は、統計指標とそれに基づく判断が正確であるよう最善を尽くしておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料に示した将来に関する全ての記述は、現時点での判断を示しているに過ぎません。